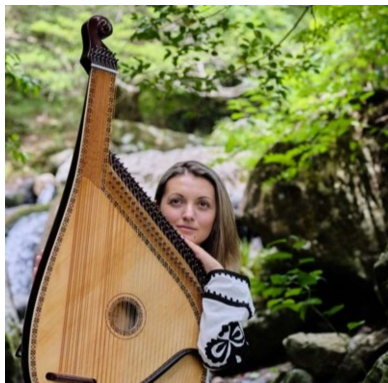


原発・核燃からの撤退を！

11月26日、「原発・核燃からの撤退を！2022関西集会」がエルシアターにおいて開催されました。

会場には約500人が集まり、支部からは11分会、執行部含め全体で14名が参加しました。

はじめに、ウクライナ民族楽器”バンドウーラ”奏者のカテリーナさんが演奏されました。



カテリーナさんは、ウクライナ・プリピャチ（チェルノブイリ原子力発電所から2.5km離れた町）に生まれ、生後30日の時にチェルノブイリ原発事故に被災し、一家は町から強制退去させられました。

6歳の時にチェルノブイリ原発で被災した子供たちで構成された音楽団「チェルボナカリーナ」に入団後、海外公演に多数参加。日本にも何度もコンサートに招待され、その時に日本の素晴らしさに感動し、19歳の時に音楽活動の拠点を東京に移されました。現在は、ウクライナ文化、民謡、歴史、音楽、そしてウクライナの現状と平和を願う思いを日本全国まわっ

て、音楽を通して伝えられています。

つづいて、守田敏也さん（フリーライター）からは、「使用済み燃料プール火災の恐怖」というタイトルで福島原発事故時、4号機のプールが燃料溶融と火災が発生する危機に陥っていた説明がありました。現在も使用済み核燃料の行き場がなく満杯に近づき、貯蔵ができなくなりそうな原発の燃料プールを、安全とされる核燃料の間隔を強引に狭めて貯蔵量を増やした危険な各地の原発を取り上げて、一刻も早い原発停止と安全管理を訴えられました。



休憩後、鎌田慧さん（新聞・雑誌記者を経てフリー）から「再処理の危機的な状況」として、国が当初描いていた核燃料サイクル政策がいかに危険で、非経済的であるか、また、福井県にある高速増殖炉「もんじゅ」のナトリウム漏洩火災事故や炉内中継装置の落下事故など、まともな稼働実績がない事実、青森県六ヶ所村に建設さ

れた再処理工場の試運転がトラブル続きで23回も延期を繰り返し、これまでに双方で13.2兆円もつぎ込まれながら何も機能しないまま今日に至る実態を話されました。



現在、岸田首相は原発の新增設、再稼働の促進、運転期間の延長・新型炉の開発など、「原発回帰」というとんでもない政策を表明しています。その理由として地球温暖化の原因となるCO2削減をあげています。たしかに地球温暖化は気温を上昇させるだけでなく地球全体の気候を大きく変える気候変動を引き起こします。既に世界各地では、自然環境や人の暮らしに、さまざまな影響や被害が現れ始めており、世界の問題として取り組むべきことではありますが、私たちが忘れてはいけない事は福島第1原発事故後に政府が発令した「原子力緊急事態宣言」が現在も解除されていないこと、福島原発は一切収束していない事実です。

双方ともが地球に甚大な被害を及ぼす問題であり、私たち労働組合として未来につながる運動が必要です。

（書記長 吉馴 真一）

辺野古新基地建設反対抗議行動

11月20日～24日、陣内副委員長と私で沖縄県名護市、辺野古新基地建設の反対抗議行動に参加してきました。

辺野古新基地建設は1996年に沖縄県宜野湾市の普天間基地返還が日米合意され、その代替施設として辺野古沖を埋め立てて建設されています。

2014年11月の知事選で辺野古移設に反対する翁長雄志氏が当選し、前知事による埋め立て承認を取り消したが政府は計画を止めることなく、2017年4月25日に辺野古の海に石材を投入する護岸工事に着手しました。

2018年12月3日には埋め立て用の土砂を投入するために、名護市安和の琉球セメントの棧橋から運搬船に土砂の積み込みが始まり、海上輸送して同月14日に辺野古沿岸部に土砂を投入しました。玉城デニー知事も辺野古移設に反対していますが、民意を無視した形となっています。



今では安和棧橋と本部町塩川港の北側バースと南側バースの3か所で、ベルトコンベアを使って積み込みを行っています。そのため、安和棧橋や塩川港でも土砂搬入のダンプに対する抗議行動や、カヌー

隊による海上から運搬船への抗議行動が行われています。塩川港から1日に200～300台のダンプが出入りするため、出入り口手前の歩道を参加者が牛歩して搬入を遅らせています。



キャンプシュワブゲート前の座り込み抗議行動は2014年7月7日から始まり、2022年11月22日で3061日目です。現在は工事車両の出入りが、メインゲートは9時、12時、15時、第4ゲートが11時となっているため、座り込み抗議行動は1日4回行われています。また、辺野古でもカヌー隊や船を出して運搬船への抗議行動や工事の進捗状況監視が行われています。

陣内副委員長がカヌー隊として、辺野古沖や塩川港での抗議行動に参加し、私は船に乗って辺野古沖での監視活動や、ゲート前の座り込み抗議行動に参加しました。辺野古沖では埋め立て地域を覆うように海上をフロートで2重に囲っています。その内側に海上保安庁のボートが7隻と、民間の警備会社のボートが2隻が監視して船やカヌーが移動すると追尾してきて侵入させないようにします。フロート内に侵入しようとしたら、運搬

船の妨害をすると海上保安庁のボートに拘束されます。接触されてカヌーを転倒させることもあるようです。



座り込み抗議行動では毎回機動隊が出てきて複数人で1人ずつ強制排除していきます。そのため、参加者が多いほど効果的になります。

今回参加して特に感じたことは、塩川港で抗議行動の呼び掛けがあり、参加者がそちらへ回った影響もあるのか、キャンプシュワブゲート前の抗議参加人数が10人前後と少なく、とても寂しく感じました。現地で活動している人に聞いてもコロナ感染による緊急事態宣言時に抗議活動を休止してから、参加人数が減っていると言っていました。また、高齢者ばかりだとか、内地からの人ばかりだと言う批判もありますが、そんなことなく若い人もいますし、現地の人も多くの人が頑張っています。

私たちも身近ではないので、沖縄の問題と考えがちですが、私たちの問題として反対の声を挙げていかなければならないと思います。そして、南西諸島や馬毛島への自衛隊配備など、戦争をできる体制が着々と進んでいるので抗議や行動で反対していきましょう。

（書記次長 関谷 和人）